教育実践研究　第31集（2021）187－192

［特別活動］

自治的能力を促進する手立ての研究

－クラス会議の実践を通して－

金子　萌南*

1　問題の所在

(1) 今日的課題から

今年度から完全実施された小学校学習指導要領（平成29年告示）の解説特別活動編では，特別活動全体を通して，自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てることを重視し，学級や学校の課題を見い出し，よりよく解決するため話し合って合意形成することの重要性を明確にした。[1] 河村（2010）は，学級集団の発達段階を５段階に分け，第５段階を「自治的集団成立期」とし，「学級のルールが児童たちに内在化され，一定の正しい全体生活や行動が，温和な雰囲気の中で展開される。学級の問題は自分たちで解決でき，児童生徒たちは自他の成長のために協力できる状態である。」として，このような学級集団の状態が満足型学級集団であると述べている。[2]

赤坂（2016）は，河村（2010）が述べた学級集団の発達段階の第５段階は「子どもたちの主体性によって組み立てられた集団」だとし，教師の指導性だけでは第４段階「大集団成立期」から第５段階「自治的集団成立期」へ移行しない，と述べ，子どもたちの主体性を高めて自治的集団を実現させる手法として，クラス会議をあげている。[3]

荒巻・赤坂（2017）は，クラス会議を実践したことで，学級の共同体感覚と児童の主体性が高まり，学級の自治的機能の向上がはかられた，と述べている。[4]

表１　河村（2010）学級集団の発達段階

第１段階 混沌・緊張期	学級編成直後の段階で，児童生徒同士に交流が少なく，学級のルールも定着しておらず，一人ひとりがバラバラな状態。
第２段階 小集団成立期	学級のルールが徐々に意識され始め，児童生徒同士の交流も活性化してくるが，その広がりは気心の知れた小集団にとどまっている状態。
第３段階 中集団成立期	学級のルールがかなり定着し，小集団同士のぶつかり合いが起こる。その結果，一定の安定に達すると指導力のあるリーダーがいる小集団が中心となって，複数の小集団が連携し，学級の半数の児童生徒たちが一緒に行動できる状態。
第４段階 全体集団成立期	学級のルールが児童生徒たちにほぼ定着し，学級全体の流れに反する一部の児童生徒や小集団ともある程度の折り合いがつき，児童生徒たちのほぼ全員で行動できる状態。
第５段階 自治的集団成立期	学級のルールが児童たちに内在化され，一定の正しい全体生活や行動が温和な雰囲気の中で展開される。学級の問題は自分たちで解決でき，児童生徒たちは自他の成長のために協力できる状態。

(2) 児童の実態から

本学級は小学校３年生，女子８人，男子７人，計15人の学級である。単学級のため，１年生から学級のメンバーはほとんど変わらず，男女関係なく学級全体で仲が良い。授業中は困っている子がいると，自然と教え合う姿が見られる。学校，学級のルールを守り，友達とのトラブルも少ない学級である。１学期末に実施した学校評価アンケートでは，「友達のよいところを見つけ，だれとでも一緒に，活動している。」という質問項目に「はい」「だいたいはい」と答えた児童が93.3％いた。

しかし，１年時２年時ともに，クラス会議のように意見を出し，話し合って決める経験が少なく，２年時の担任は，本学級の児童の実態について「自分の考えをもつことができる児童が多いが，それを発表する児童が少ない。特に，意

*上越市立豊原小学校

見を多く出して検討するような場面では，人と違う意見だと自分の意見に自信を無くし，発表しない児童が多かった。」と述べた。主体的に発言し，問題解決しようとする態度は，まだ身に付いていない。

だれとでも一緒に活動できるが，主体的に問題解決する態度が身に付いていないので，本学級は河村（2010）の学級集団の発達段階では，第４段階の「全体集団成立期」にあたると考える。

2　研究の目的

クラス会議を行うことで，主体性が高まり，自治的集団に近づくのではないか，という仮説を検証し，自治的集団に近づくための手立てを明らかにする。

3　研究内容と分析の方法

(1) 調査対象と調査期間

Ａ県Ｂ小学校３年Ｃ組（男子７名，女子８名）６月17日～９月16日で実施したクラス会議

※クラス会議は５月から実施していたが，基本的な価値・スキル・態度を学ぶ時間だったので，調査には含めない。

(2) 分析の方法

①浅見（2009）が作成した「主体性尺度（一部抜粋）」を使用し，児童の主体性を測定する。実際の主体性尺度（一部抜粋）は以下の通りである。[5)]

表２　主体性尺度（一部抜粋）

1	人に言われなくても，やることを考えて，進んでおこなっていますか。
2	あなたは　一人でやれることも　ふあんなので　友達といっしょにすることが多いですか。
3	あなたは　いろいろなことを　おもしろい，やってみたいという気持ちがありますか。
4	あなたは　目標をもち，それができるようにこつこつ取り組みますか。
5	あなたは　自分の考えを言うことができますか。
6	あなたは　自分の考えを　自分の言葉で言えますか。
7	あなたは自分の考えをもって　進んで自分から言いますか。
8	あなたは　新しいことをどんどんやってみる気持ちがありますか。
9	あなたの友達は　あなたのためになるようなことをしてくれることが多いですか。
10	あなたは　自分が人のためになる仕事ができるようになると思いますか。

②ビデオで録画したクラス会議の発話を文字データ化し，発表場面における児童の発言数の変化と教師の指導行動について分析する。教師の指導行動については，菊池・山本（2015）が作成した，教師の指導態度を具体的に捉える「担任教師の働きかけ」分析カテゴリーをもとに分類する。実際のカテゴリーは以下のとおりである。[6)]

表３　「担任教師の働きかけ」分析カテゴリー

	分類	説明	具体例
①	発問・問いかけ	学習内容にかかわる問い，日常的な内容の質問	なぜ～ですか どうしてでしょう
②	指示・判断・許可	行動全般に関する指示，指示よりも軽い呼びかけ，正誤・善し悪しの判断	～しなさい ～してください
③	確認・言い換え・反復	発言内容の説明や確認するもの，児童の発言をそのままくり返す，反復する。これは児童の積極的な働きかけがあって初めて成立する。	～ということだね ～と思ったんだね
④	提案・意見・感想	教師の意図や考えを児童に伝える言葉で指導的なものを含む，または教師自身の素朴な意見・感想を伝える。	～たらどう ～と思う
⑤	肯定・賞賛	発言内容や行動に対する肯定的な評価をする言葉，または学習内容の正解を示唆する言葉も含む。	そうそう いいね
⑥	受容・はげまし	児童の発言や行動を促す言葉，または肯定的な評価の場合は「⑤肯定・賞賛」より明確でないものを含む。児童の積極的な働きかけがなくても成立する。	大丈夫いってごらん できるよ

⑦	命令・禁止・否定	批判・叱咤を含む。	しなさい，いけない
⑧	婉曲的な叱り	呼びかけや誘いを使った注意。たしなめるような言い方。	～できてないよ 次は～をやろう

(3) クラス会議の概要

本研究で実践したクラス会議の手順は，赤坂（2014）を参考にした。[7] 実際の手順は以下の通りである。

①「あいづち　あ・い・う・え・お」を言う。

②ハッピー・サンキュー・ナイスを言う。（友達からしてもらってうれしいことなどを順番に発表する。）

③前回の解決策を振り返る。

④議題の提案。

⑤解決策を集める。

⑥賛成意見，反対意見を出して解決策を絞る。

⑦解決策を決める。

５月からクラス会議を始め，９月16日までに16回クラス会議を行った。第１回目から第５回目までは，子どもたちが効果的に話し合うために必要な価値やスキル，態度を学ぶ時間であった。第６回目以降の議題については，以下の通りである。

表４　クラス会議の議題

回数	日付	議題
第６回	６月17日	仕事がなく機能していない係があるが，どうするか決める。
第７回	６月24日	ふわふわ言葉の目標を達成できたら，お楽しみ会をするかどうか決める。
第８回	７月２日	会社活動について決める。
第９回	７月９日	ふわふわ言葉の目標を達成したから，次の目標を決める。
第10回	７月14日	走り回る人がいて危ないので，教室で過ごすルールを決める。
第11回	７月21日	きらきらタイム（全員遊びの時間）の回数について決めなおす。
第12回	７月28日	会社活動のルールを決める。
第13回	９月１日	挨拶運動ですることを決める。
第14回	９月８日	２学期の会社活動について決める。
第15回	９月15日	挨拶運動の改善点を話し合い，新しい挨拶運動を決める。
第16回	９月16日	（第15回の続き）挨拶運動の改善点を話し合い，新しい挨拶運動を決める。

4　実践の結果と分析・考察

(1) 主体性の変容について

表５　主体性尺度で「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた児童数の変容

		７月末	９月末
1	人に言われなくても，やることを考えて，進んでおこなっていますか。	13人	14人
2	あなたは一人でやれることもふあんなので　友達といっしょにすることが多いですか。	３人	６人
3	あなたは　いろいろなことを　おもしろい，やってみたいという気持ちがありますか。	13人	14人
4	あなたは　目標をもち，それができるようにこつこつ取り組みますか。	12人	13人
5	あなたは　自分の考えを言うことができますか。	11人	11人
6	あなたは　自分の考えを　自分の言葉で言えますか。	10人	11人
7	あなたは自分の考えをもって　進んで自分から言いますか。	11人	11人
8	あなたは　新しいことをどんどんやってみる気持ちがありますか。	12人	13人
9	あなたの友達は　あなたのためになるようなことをしてくれることが多いですか。	11人	13人
10	あなたは　自分が人のためになる仕事ができるようになると思いますか。	13人	14人

※「２．あなたは一人でやれることもふあんなので　友達といっしょにすることが多いですか。」は，「ちょっといいえ」「はっきりいいえ」が望ましい答えなので，「ちょっといいえ」「はっきりいいえ」と答えた児童数の変容

上記の主体性尺度で，10項目中８項目で「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた児童数が増加した。２項目で「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた児童数が変わらなかった。

また，「クラス会議をやって，自分は変わった，成長したと思うか。」という質問に対して，14人中12人が「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた。「クラス会議をやって，クラスが変わった，成長したと思うか。」という質問に対して，14人中14人が「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた。その理由は以下の通りである。

表６　「クラス会議をやって，自分は変わった，成長したと思うか。」に「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた理由（複数回答可）

自分が変わったと思う理由	回答人数	児童の回答の具体例
意見の発表	７人	・たくさん意見を言える，考えることができるようになった。
話の聞き方	３人	・話の聞き方が上手になった。
決まったことを実践したことによる変化	１人	・挨拶をする回数が多くなった。
その他	２人	・話し合いに参加できるようになった。

表７　「クラス会議をやって，クラスが変わった，成長したと思うか。」に「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた理由（複数回答可）

クラスが変わったと思う理由	回答人数	児童の回答の具体例
意見の発表	10人	・考えをたくさん発表しているところ。
話の聞き方	１人	・話の聞き方がよくなった。
決まったことを実践したことによる変化	２人	・ふわふわ言葉がみんな言えていると思った。 ・あいさつが増えている。
その他	３人	・みんなで仲良くなった。みんなで遊んだり話したりすることが多くなった。 ・先生やみんなの困ることをあまりしなくなった。 ・みんなが笑顔できらきらなかよし会議をやっていた。

主体性尺度10項目中８項目で「はっきりはい」「だいたいはい」と答えた児童数が増加したことから，主体性が高まった可能性が示唆された。また，児童の記述からも，主体的に意見を発表したり，友達や教師の話を積極的に聞いたりしようとすることができるようになったことがわかった。また，２学期の振り返りをテーマにした作文で，「３学期は先生がいなくても，みんなできらきらなかよし会議をすすめられるように協力したいです。みんなですすめられたら，４年生になって先生が変わってもきらきらなかよし会議ができるからです。」と記述した児童がいた。こうした児童の記述からも児童の主体的の主体性が高まりを窺うことができた。ではなぜ，こうした児童の変容が見られたのであろうか。教師の指導行動を中心にして分析をする。

(2) 教師の指導行動について

①　発表場面における児童の発言数の変化から

表８　日付別，児童の発言数の変化

日付	6/17	6/24	7/2	7/9	7/14	7/21	7/28	9/1	9/8	9/15	9/16
発言数	21	40	37	53	19	36	31	20	41	25	19

児童の発言数が40回を超えている日は，３日ある。児童の発言数が多い日は共通して，子どもたちの意見が分かれる，または多様な意見が出される議題であった。それに加えて，教師が「ＡかＢ，どちらにするか。」など，選択肢を提示し，児童が意見を出しやすいように支援する言葉がけをしたことも共通していた。

例えば，１番児童の発言数が多い７月９日の議題は，「ふわふわ言葉の目標を達成したから，次の目標を決める。」であった。その中で教師は，「１日に言うふわふわ言葉の数を３こから増やすか，３このままで10日間連続から増やすか，それ以外か，３つのうちで考えてください。」と，選択肢を提示して，意見を出しやすいよう支援した。

また，教師が毎回話し合いをする前に，前回のクラス会議でよかったところと今日のクラス会議で頑張ってほしいこと，３年生が終わるときにどのような集団になっていてほしいかを子どもたちに伝えていた。話し合いの中でも主体的

に発言するように伝えていた。クラス会議の価値やスキルや態度を教師の意見・感想として何度も伝えた日の方が，児童の発言数も多くなっている傾向にあった。

② 教師の指導行動の分類から

表９ 日程別，教師の指導行動の分類（回数）

	6/17	6/24	7/2	7/9	7/14	7/21	7/28	9/1	9/8	9/15	9/16	合計
発問・問いかけ	3	13	11	9	9	6	8	4	8	0	4	75
指示・判断・許可	3	4	4	4	3	2	4	1	4	0	1	30
確認・言い換え・反復	6	2	4	10	10	9	8	5	12	3	7	76
提案・意見・感想	3	11	9	2	3	6	2	9	16	6	4	71
肯定・賞賛	12	4	3	2	0	3	2	3	3	2	4	31
受容・はげまし	5	4	8	7	5	4	3	1	2	2	3	44
命令・禁止・否定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婉曲的な叱り	1	0	1	1	0	3	0	1	0	1	0	8

表10 指導行動の分類による実際の発話例

	分類	クラス会議における実際の発話例
①	発問・問いかけ	「新しくこんな係ほしいとかある？」
②	指示・判断・許可	「自分の中でどの会社にするか決めて。」
③	確認・言い換え・反復	「多くても２つであれば，１つでも２つでも選べるからいいってことね。」
④	提案・意見・感想	「ここで意見がいっぱい出ると，とても良いと思います。」 「今日の会議では，思いついたら意見を言う，人と同じでも言う，たくさん意見を出すというところを頑張ってみてください。」
⑤	肯定・賞賛	「聞いていることを態度で示せる人が多くなっていいと思います。」 「みんな意見言ってよかったね。ちゃんと理由を言えたのが素晴らしいよね。」
⑥	受容・はげまし	「なるほどね」
⑦	命令・禁止・否定	なし
⑧	婉曲的な叱り	「聞いていることを態度で示しているのはいいですが，足を下ろすと完璧です。」

上記の表から，１番多い教師の指導行動は，「確認・言い換え・反復」であり，次いで「発問・問いかけ」「提案・意見・感想」が多かったことが分かった。また，回数を重ねるごとに教師の「発問・問いかけ」の回数が減っていき，「確認・言い換え・反復」と「提案・意見・感想」が増えていることがわかる。

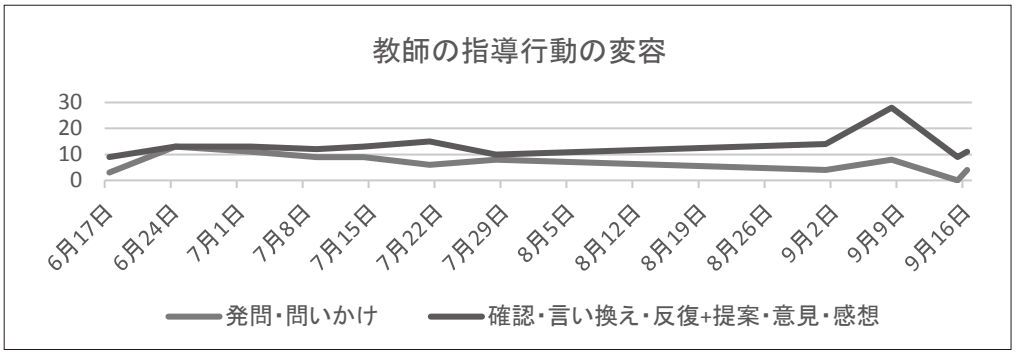

図１ 教師の指導行動の変容

教師の「発問・問いかけ」の回数が減り，「確認・言い換え・反復」と「提案・意見・感想」が増えていることは，教師の指導的な発問や進行を補助する発問が減り，子どもたちの自由度が高まって，主体的に動くようになっていった

ので，子どもの発言を補助する「確認・言い換え・反復」と価値や態度を伝える「提案・意見・感想」が増えていったと考えられる。

荒巻・赤坂（2017）は，６年生のクラス会議において教師の指導行動を「担任教師の働きかけ」分析カテゴリーに基づいて分類した。その結果，児童に決定権がある話し合い活動を仲間と共に実施する中で，教師が引っ張る直接的指導行動ではなく，「提案・意見・感想」などの間接的な指導行動をとることで，学級の自治的機能が向上したことが示唆されたと述べている。[8)]

よって,本学級でも教師が要求をする直接的指導行動から,「提案・意見・感想」などの間接的な指導行動に変容していくことで，主体性が高まり，自治的能力が促進されたことが示唆された。

5　全体のまとめ

クラス会議を実施することを通して，児童の主体性が高まり，自治的能力が促進されたことが示唆された。その理由として，次のような手立てを取ることが，主体性を高め，自治的能力育成を促進することに寄与したと考えられる。まず，選択肢を提示し自分の考えを持ちやすくしたこと，次に，クラス会議の価値や望ましい態度，集団としてどのように成長してほしいといった教師の願いを繰り返し伝えること，そして,「提案・意見・感想」などの間接的な指導行動をとることである。これらの指導が，結果的に児童の話し合いに対する意欲を高め，参加態度や行動に影響を及ぼし，主体性が高まりとして発現したのではないだろうか。

6　今後の課題

本研究は，６月中旬から９月中旬までの短い期間の実践を分析した。長期に亘ってクラス会議を実践すると共に，一つの尺度ではなく，多角的に主体性の変容を捉えて検討する必要がある。また，教師の指導行動との因果関係も詳細な分析が必要である。そして，今回の結果は，３年生の一学級においてのみ確認されたことであり，他学年，他学級でも同じ結果が得られるか，検証が必要である。

引用参考文献

1) 文部科学省「小学校学習指導要領解説　特別活動編」，2017
2) 河村茂雄「日本の学級集団と学級経営　集団の教育力を生かす学校システムの原理と展望」図書文化，2010
3) 赤坂真二「赤坂版『クラス会議』バージョンアップガイド」ほんの森出版，2016
4) 荒巻保彦・赤坂真二「自治的集団への高まりを促進する教師の指導行動～主体性・共同体感覚の変容から～」，上越教育大学教職大学院研究紀要 ４巻　pp. 1-11，2017
5) 浅見健一郎「子どもの主体性と適応感の関係に関する縦断的研究」九州大学大学院人間環境学研究院，九州大学心理学研究　第10巻　pp.217 -223，2009
6) 菊池　香・山本　奨「小学校における『担任教師の働きかけ』分析のためのカテゴリー作成の試みと教師の指導態度」，岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要14巻　pp.373-384，2015
7) 赤坂真二「赤坂版『クラス会議』完全マニュアル　人とつながって生きる子どもを育てる」ほんの森出版，2014
8) 前掲４）